

矢田遺跡発掘調査 現地説明会資料

- ◎ 調査地 七尾市矢田町～万行町地内
- ◎ 委託者 石川県中能登土木総合事務所（土木部都市計画課）
- ◎ 調査原因 外環状線 街路整備工事
- ◎ 調査主体 石川県教育委員会（調査担当：公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター）
- ◎ 調査期間・面積 令和3年5月下旬～12月下旬・3,550㎡（予定）
- ◎ 概要

矢田遺跡は七尾市中央部に位置する弥生時代～中世の遺跡です。遺跡の北側には矢田高木森古墳(前方後円墳)が、北東へ1kmほどに国指定史跡の万行遺跡が所在します。市教育委員会による調査(昭和60年)では川跡や溝を検出し、弥生時代～中世の土器や木製品が出土しました。

実に36年ぶりとなる今回の発掘調査では、古墳時代から古代(奈良・平安時代)の川跡や溝、柱穴などの遺構を確認しています。調査区のうち、北側のA区は既に調査を完了しています。A区では古墳時代から平安時代にかけての川跡を検出し、須恵器の坏などの土器や、小型祭祀具などの木製品が出土しました。

調査中のB区では、弥生時代から古墳時代の川跡や溝などを調査しています。土師器の高坏・小型丸底壺などの土器や、双孔円板などの石製品、刀の把・柱などの木製品が出土しており、注目されます。

[主な遺構] 川跡、溝、柱穴

[主な遺物] 須恵器、土師器、石製品、木製品



矢田遺跡と周りのようす

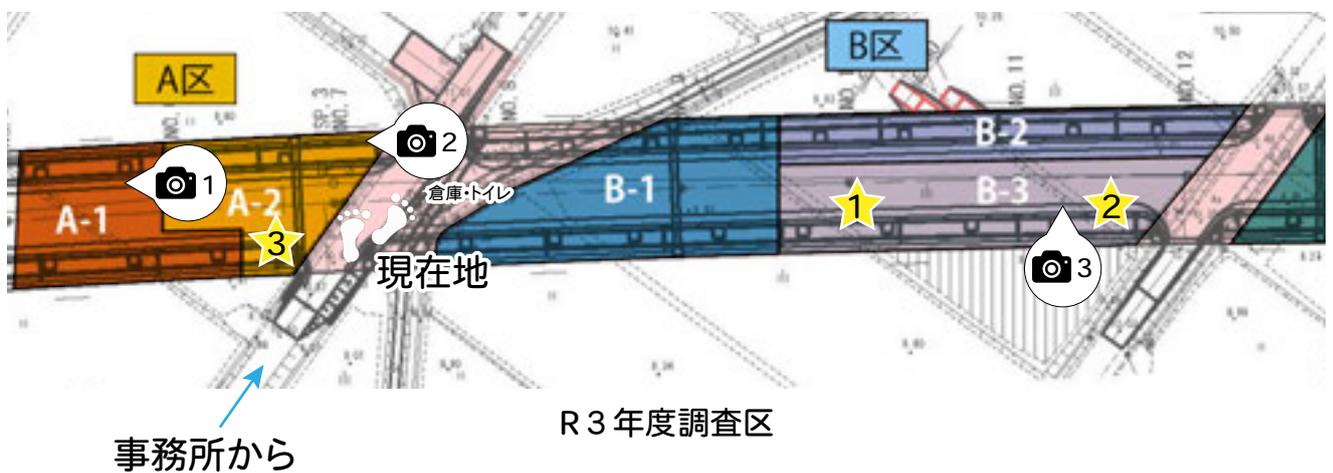
★まとめ

矢田遺跡は主に古墳時代～奈良・平安時代の遺跡で、川跡から多くの遺物が出土

発掘の方法 ～現場でしていること～

発掘調査は、基本的に考古学の手法に基づいて行います。

- ① 重機を使って遺構・遺物の上の土を取り除き、
- ② 土を丁寧に削って遺構を探し、
- ③ 遺構を手順通りに掘り進め、正確な記録保存をします。
- ④ 遺構や遺物は簡単に壊れてしまうので、基本的に手作業で行っています。





A-1区の様子



A-2区の様子



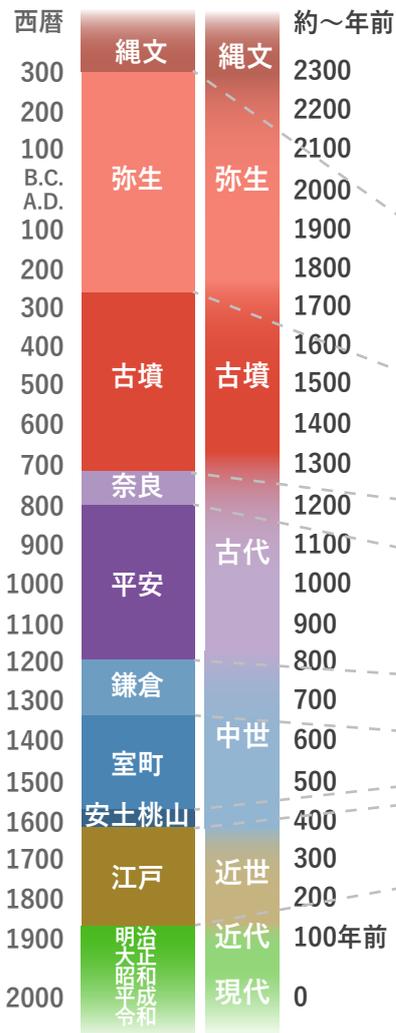
(上段左) 古墳時代の土器の出土状況

(上段右) 古墳時代の木製刀把つか(写真右側)

(下段) 古代の木製祭祀具



今回見学する川跡の上層部分



約～年前

2300

2200

2100

2000

1900

1800

1700

1600

1500

1400

1300

1200

1100

1000

900

800

700

600

500

400

300

200

100年前

0

石川県遺跡年表

西暦	時代	日本の動き	石川県の動き
10000頃	旧石器	土器の出現 貝塚の形成	丘陵上で石器を使った生活が始まる 定住的な生活のはじまり 大型竪穴住居が出現する
300頃 B.C. A.D.	縄文	農耕文化が伝わる	巨大木柱列がつくられる
250頃	弥生	金属器の使用 郡县台国の成立	方形周溝墓・高地性集落の出現 低地で平地式住居がつくられる
710	古墳	大型古墳がつくられる 須恵器の生産がはじまる	玉造集落の形成 前方後円墳がつくられる 横穴式石室がつくられる
794	奈良	平城京へ遷都	能登国の設置(718) 大伴家持の能登巡行(748)
1192	平安	平安京へ遷都	加賀国の設置(823) 加賀国・能登に国分寺が設置される 加賀郡惣示札がたてられる(849) 山岳信仰が盛んとなる 中世農業への陶器生産始まる
1338	鎌倉	鎌倉幕府の成立	白山・石動山などの山岳信仰盛んとなる 港町を中心として集落が発達する
1573	室町	室町幕府の成立	山城が築かれる 加賀一向一揆がおこる
1603	安土桃山	室町幕府の滅亡 江戸幕府の成立	前田利家の金沢入城 山中町丸首で陶器を焼き始める
1868	江戸	明治維新	石川県の誕生(1872)
	明治	第二次世界大戦	